



平成二四年度(第八四回)秋田県殉職消防職・団員慰霊祭が、九月五日(水)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「八幡秋田神社」において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われた。

慰霊祭には、ご遺族の方二〇名のほかご来賓、消防協会役員など五八名が参列し、四五柱の御霊に災害の防止と消防活動の安全を誓った。

慰霊祭では、招魂などの神事後、中泉松之助秋田県消防協会長が「招魂碑に祀られている御霊は、郷土を災害から守るため、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行する最中、尊くも職に殉じられました。われら消防人は御霊のご遺訓を胸に、一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを、謹んでお誓いする」と祭主祭文を奉上了。

**災害の防止と消防活動の安全を誓う**  
 平成二四年度殉職消防職・団員慰霊祭



題 字  
 初代会長 松野盛吉  
 定 価 1部 5円  
 (購読料は年会費に含む)

発行人  
 〒010-0951  
 秋田市山王四丁目1番2号  
 秋田地方総合庁舎内  
 秋田県消防協会  
 会長 中泉松之助  
 電話 018-867-7320  
 FAX 018-863-5910  
<http://www.shoubou-akita.or.jp>  
 E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷  
 〒010-0951  
 秋田市山王7丁目5-29  
 株式会社 松原印刷社  
 電話 018-862-8760  
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

佐藤 与次郎	小田島 庄吉	殉職者氏名
松山 憲子	久慈林 美佐子	遺族氏名
佐藤 由美子	栄 司	



本県からは、次のご遺族の方が出席された。

第三一回全国消防殉職者慰霊式は、九月一日(木)午前一〇時から日本消防会館ニッショーホールで行われ、秋本敏文日本消防協会長の式辞に続き、野田佳彦内閣総理大臣らが追悼の言葉を述べられた。

**全国消防殉職者慰霊式**

平成二十四年度全国統一防火標語  
**消すまでは 出ない行かない 離れない**



秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われており、今年も、九月四日(火)に八六名の在校生によって行われた。清掃は、本間稔学校長の訓辞、参加者全員による黙祷の後始められ、約二時間をかけ、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを洗い流した。第六期初任教育入校生の皆さん、ありがとうございました。

**第六期初任教育入校生  
 殉職消防組員招魂碑を清掃**  
 秋田県消防学校

秋 田 県  
消防学校

初任教育第六六期修了式  
八六名全員修了第二線での活躍を期待

秋田県消防学校初任教育第六六期の修了式が九月二二日(金)、同校の屋内訓練場で修了生のご家族やご来賓約三〇〇名が出席して行われ、四月に入校した八六名は全員揃って修了式に臨んだ。  
六ヶ月間の厳しい訓練を乗り越えて一段と逞しさを増した修了生は、消防人としての使命を新たに、明日からそれぞれの所属消防本部に着任することになる。



修了式では、先ず本間稔学校長が修了生一人ひとりに修了証書を授与した後、成績優秀者として次の学生を表彰した。

表彰状授与

優 秀 賞 (七名)

能代山本広域市町村圏組合消防本部 川村 耕平  
秋田市消防本部 加藤 祐輝

能代山本広域市町村圏組合消防本部 山須田 涼  
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 高橋 遼

五城目町消防本部 伊藤 大志  
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部 富樫 亮太

鹿角広域行政組合消防本部 佐藤 雄太

功 勞 賞 (五名)  
大館市消防本部 総 代 川添 正孝  
大館市消防本部 副総代 菅原 幸大

由利本荘市消防本部 副総代 佐藤 俊弘  
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 会 計 高橋 健

湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部 会 計 佐藤 匡人  
堀井啓一秋田県副知事と中田潤秋田

引き続き、本間学校長が式辞を、

県消防協会副会長らが祝辞を述べた。

最後に、大館市消防本部川添正孝消防士が「消防学校で苦楽を共にした半年間と、八六名の仲間はこちらから歩んでいく消防人生の糧であり、かけがえのない一生の宝物です。近年では、地震や異常気象による大雨や土砂災害など悲惨なニュースは後を絶ちません。こうした中で、私たちは、地域住民の生命、身体及び財産を火災から保護し、水災又は地震等の災害による被害を軽減するほか、困っている人を助けたいという初心と使命感を忘れず、消防業務に尽力していきます」と力強く答辞を述べた。

修了生の中には「あつという間に六カ月が過ぎた。これからが消防士としての本当の始まりとなる。全力で頑張りたい」「この半年間は、今までの人生の中で一番内容の濃い期間だったと感じている。楽しいこと、辛いこと共に乗り越えてきた六六期の全ての仲間、教官方、関係者の方々、環境全てに感謝したい」などと話していた。



式 辞



秋田県消防学校  
学校長  
本間 稔

皆さんは、春うらかな四月に入校し、消防全般に亘る基本的な知識や技術を習得しました。この間、大変厳しく困難な訓練を、不屈の精神と仲間の熱い友情と団結で見事乗り越え、本日、めでたく八六名の入校生、全員が修了式を迎えることができました。

入校式で、皆さんには、「夢、一生」と申し上げました。修了に当たり、「最悪の場面でも、乗り越える覇気を持って」の一言を贈ります。

災害に当たっては、ハートは「県民の命、財産を守る」熱き魂で、頭はクールに冷徹な目で事態を見極め、真つ正面から立ち向かい、果敢に挑戦し、最悪の場面でも、乗り越える覇気を持って、住民の命、財産を守って頂きたい。

皆さんの半年間の努力に、敬意を表しますとともに健康や事故にはくれぐれも御留意され、楽しく充実した消防人生を歩んでください。皆さんの今後の健康を、心から祈念し、式辞と致します。

祝 辞



秋田県副知事  
堀井 啓一

四月の入校以来、約半年間の厳しい教育訓練を経て、本日ここに、修了式を迎えられました八六名の修了生の皆さんと、ご家族の皆様に対しまして、心からお祝い申し上げます。

さて、最近の消防を取り巻く状況ですが、今年は二年連続の豪雪に始まり、ゲリラ豪雨と称される局地的豪雨が頻繁に発生するなど、災害に対し、これまで以上に、緊急かつ的確な対応が求められており、県民の皆様からの消防への期待とその要請は、今後、ますます高まっていくものと思えます。

皆さんは、明日から第一線に立つ消防職員となるわけですが、消防が県民の安全・安心を守る、崇高な業務であるという誇りを胸に刻み、災害には「強く」立ち向かい、そして、県民の皆様に対しては「愛情」溢れる、頼もしい「ファイヤーファイター」として、大いに活躍されますよう、お願い申し上げます、あいさついたします。



秋田県消防協会  
副会長  
中田 潤

第六六期初任教育課程の八六名の皆さん、修了おめでとうございます。

四月一三日に入校して以来、夏の猛暑の中での厳しい訓練など、この六ヶ月間を全力で乗り越えられ、心身とも逞しくなりました。

私たち消防人は、どのような社会であつても、また、いかなる災害時にあつても、地域の安全と安心を守つていかなければなりません。

そのためには、強靱な意志と訓練で裏付けられた技能が何よりも大切なことだと思っております。

この初任教育課程を修了したことに驕ることなく、明日からの勤務に怯むことなく、自ら選択した消防職に限りない誇りと自信を持って、職務に励んで下さい。

皆さんは、大きな可能性を持っておられます。必ずや、この期待に応えてくれるものと確信しております。

皆さんのご活躍をご祈念申し上げます。私のお祝いのことばといたします。



第六期初任教育

四ヶ月を振り返って

秋田県消防学校

今日歩大会に参加して



佐藤 俊  
(秋田市消防本部)

今日仲間と四〇キロ走り、本当にいい思い出を作れました。結果も消防学校内で一位と目標を達成でき、満足して今日歩大会を終えました。結果以上にたくさんのことを学びました。

一つは仲間との友情を深めることができたこと。今日歩大会は四人でゴールしなければならず、四人が協力しあつて走る必要がありました。ペース配分を考えてみんなが継続して走れるよう努力しました。また仲間とはお互いに声を掛け合い、走りました。こうして、みんながゴールできたときは、全員で喜びを分かち合うことが出来ました。ここで学んだことは、これからの消防官として働くうえで生かしていけると考えています。  
二つ目は、強い自信を得ることが

出来たことです。精神的にも、肉体的にも辛い思いをしてこれからどんなことにも向かい合う自信ができました。この経験を活かし乗り越えていけたらと思います。厳しい訓練にも強い気持ちを持つて臨みたいですし、そして精神的にも強い消防士になりたいです。

今日歩大会から学んだことをこれから活かし仲間を気遣い、向上心をもつて頑張りたいです。



航空隊の視察研修を終えて



山方 翔平  
(大曲仙北広域市町村圏組合消防本部)

航空隊の基地を視察して思ったことは、とにかく「カッコいい」と思いました。各所属から選ばれた先輩方が厳しい訓練を乗り越えて鍛えられた姿を見せてもらい、とても勉強になりました。

航空隊員になることは、勇気がいると思います。強い気持ちが必要だと言っていました。自分も今は無理でも、いつかは目指したいと感じた視察研修でした。

今までを振り返って



鈴木 慎  
(横手市消防本部)

私か秋田県消防学校に入校して早くも四ヶ月が経過して、初任科として過ごせるのも残りあと一ヶ月くらいになりました。横手市消防本部に採用されてから、消防に関しては無知なまま消防学校に入校して、今まで様々な知識を学んできました。

私は消防学校に来る前は消防士というのには、とにかく訓練をたくさんしていれば立派な消防士になれるものだと思っていました。しかし、消防学校で大量の教科書を渡されたときは、消防の仕事というものはこんなにも学ぶことがあるのかという衝

撃的な事実を知りました。時間が経っていくうちにたしかに訓練も必要だと思ふけど、それ以上に座学での知識もなければ訓練や実際の現場でも応用を利かせることが出来ないんだということがわかりました。今では座学が終わつてしまえば、教官の下で、訓練でしか知識を身につけることが出来ない時期になってきています。

授業も訓練も大切ですが、自習時間等を活用してこの四ヶ月学んだことは忘れずに復習して、所属に戻ったときには立派になつたと言わせることが出来るように、残り一ヶ月気を引き締めて学校生活に臨みます。





第八回  
消防団員  
意見発表会(三)



須田 敦  
・にかほ市消防団  
副分団長  
・勤続一八年  
・会社員

平成六年にかほ市消防団へ入団。  
平成一七年班長、平成一九年部  
長を歴任。  
平成二二年にかほ市消防団第3  
分団副分団長に就任後、入団以来  
から培ってきた経験を活かし団員  
の教育・訓練に率先して参加。ま  
た、地域の安心安全を守る為、日  
夜尽力している姿は他の模範とな  
り、地域住民からの人望も厚い。

「楽しい消防団にするために」

まず、私が消防団に入ったきつ  
けから話しますと、私はもともと私  
立消防隊に入っており、隊長を努め  
ていました。

ある日、公立消防団の部長と班長  
が私の所に来て、「おめでとうだ、若  
げもの私立の隊長さしておぐのもつ  
たいね、おらほさ来て十年ぐれ訓練  
してがらでも遅ぐね」と言われまし  
た。

当時、私は三十才そこそこの隊長

でしたので公立消防団から目を付け  
られたと思いました。そこで、私立  
の臨時総会を開き他の人を推薦しよ  
うとしたら隊長が行ってくれと言う  
事となり、渋々引き受けたんですが、  
さあそこから大変です。

私立に居れば隊長なのに公立では  
一年生ですから年下の団員からもよ  
く怒られてました。

訓練では失敗するし、怒られるし、  
文句も言えないし本当に面白くない  
消防団だと思つてました。それでも  
辞めなかつたのは中には優しい先輩  
も居てはげましてくれたからです。

県大会の出場が決まつた時は嬉し  
くて泣いてしまい、団員達から泣き  
べそ部長と笑われた事もあります。

団員達と泣いたり笑つたり楽しかつ  
たですね。ある日、毎日頑張つてい  
る団員たちを喜ばそうと思ひパーベ  
キューの企画をしたら予想どおり大  
喜びでした。

それからは、夏の恒例行事になつ  
ています。

私は、消防団とは厳しさだけでな  
く、楽しさが無ければ駄目だと思つ  
ています。副分団長となつた今、分  
団の若い団員達の話を聞いて楽しく  
消防団活動が出来るよう頑張ろうと  
思います。



一色 順子  
・大仙市消防団  
団員  
・勤続二年  
・会社役員

あこがれの航空自衛隊婦人自衛  
官教育隊に入隊、航空自衛隊第二  
教育群本部教科科に勤務する。そ  
の後結婚し、愛の巣を大仙市に構  
えている。夫は山口県の出身で、  
言葉、文化の違いを日々感じなが  
ら楽しんでる。現在は有限会社  
「堀内清掃工業」取締役として環  
境衛生事業に従事しながら、人々  
の幸せを願って奮闘している。

「今、私が  
女性消防団員として思うこと」

私が大仙市消防団に入団したのは、  
中学の同期生から誘われたのがきつ  
かけでした。消防団の集まりに行く  
たびに驚くのが知り合いに会うこと  
です。私の周りに消防団員が多かつ  
たことに今まで気付いていませんで  
した。消防団という組織を少しずつ  
知り始めた私が思ったことは、日本  
の消防団という組織は実に素晴らし  
い組織なんだということです。人が  
困っている時に自分の事のように心  
配し、一生懸命行方不明者の搜索活  
動や火災の消火活動を行う。時代の  
流れと共に価値観や生き方の多様化  
によって消防団員は減少傾向にある

との事ですが、消防団の長い歴史と伝統は人の繋がりが薄くなっていないものだと私は思っております。そのことは今ここにいらっしゃる方々はもちろん、すべての団員が感じていることでしょう。消防団は地域の全ての情報収集と発達の源であり、同時にそれは、団員同士の先輩後輩のつながりと絆の一筋でもあります。多職の方々の集まりであり、人生の裏表の事実を深く経験した方々の集団でもあります。

では、女性消防団員はどのような事が出来るのでしょうか？今の大仙市女性消防団員は活動期間が短く講習や研修も数回です。何を目標に活動したらいいのかさえわからない状態です。地域の為になる目標を持ち、学んでいくことから始めなくてはなりません。消防団の長い歴史と伝統の足手纏いにならないように努力し、急がず確実に知識と技術を習得していきたくと思っております。礼式ひとつ解らない私たちですが、周りの団員の方々の厳しく暖かい眼差しの中で謙虚に美しく頑張りたいと切磋琢磨しております。嬉しいことに大仙市消防団は私たち女性消防団員を常に女性として扱うのではなく地域の消防団員としてレクチャーをしてくれれます。私たち女性消防団員は女性として活動することが望ましい場合

合は女性として、消防団員として活動することが不可欠である場合は団員としていろいろなことに取り組みたいと考えております。「消防団は、常備消防と自主防災組織との間をとりもつ役目、消防団員の権利と義務を忘れないで」東京防災救急協会講習指導担当部長谷口由美子さんが、今年二月東京で開催されました中央特別研修の講話の中で話された言葉です。全国規模の研修会、消防団に入団して間もない私の心に響いた言葉です。火災が起きた場合も、人が意識を無くし倒れた時も、プロの常備消防が現場に到着する前に、少しでも火災の勢いを抑えられたら、呼吸がない人に胸部圧迫による心臓マッサージが出来たら、人命や財産を守る事につながる、知識や技術がなければ躊躇してしまう事を、普段の講習や研修で身に付けていけば、自らが率先してできる事だと思えます。地域災害から個人の災難まで、色々な災害がありますが、その時に頼られる消防団員でありたい。そのためには多くの研修を受けたいという気持ち溢れます。大規模災害が発生してからでは間に合わない事を想定し備えておくことを、これからの活動で形にしていきたいと思っております。

今年、第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会が一月に秋田市で

開催されます。全国の女性消防団員の活動報告などたくさん情報交換が行われます。秋田県内からも皆で参加し大会を盛り上げ、自分の住む地域の為になる情報を持ち帰り地域の安全安心を實行して参りたいと思います。昨年の一七回大会が香川県で開催されました。そのパワフルな感動に刺激を受け秋田大会が誰もが満足し中身のある記憶に残るものにしたと思います。

最後に、私に皆様の前で発表する場を設けていただきました秋田県消防協会、大仙市消防団草薨団長をはじめとする消防団関係者の方々に心より感謝申し上げます。私は定年を迎えるまで消防団員として頑張ることをお誓い申し上げます、意見発表を終わります。ご静聴ありがとうございます。



**福田 優一**  
・横手市大森消防団員  
・勤続一年  
・内装工

勤務先が遠く平日は地元にはいない中、消防団員が務まるのか不安であったが、妻の後押しで昨年、消防団に入団を決意した。

父親も横手市大森消防団第3分団の副分団長として活躍、親子で消防団員一年目を振り返る。

## 「消防一年生」

現在、会社員、自営業、主婦、など様々な職種、男女に関わらず幅広い年齢層の方々が消防団員として活動しています。私も内装工としての仕事をしながら、平成二三年に横手市大森消防団第三分団に入団いたしました。

仕事をする現場が主に秋田市にある為、朝六時前には出勤し、夜は八時頃の帰宅となる事がほとんどの毎日、平日は地元にいる時間が圧倒的に少ない中、消防団入団の誘いを受け、初めは断るつもりでいました。

それは、自分の父が地元で勤務しながら消防団員をしていて、連絡が入ればすぐに駆けつけていた姿を小さな頃から見ていたので、自分には出来ないと感じたからです。

そんな時、『お父さんは一緒に消防やりたいと思ってるんじゃない？』何気なく言った妻の一言。父からは「消防団は家族の協力なくしては務めていけない」と聞かされていたので、「家族が応援してくれるなら頑張れる」妻が言ってくれた一言で入団を決意しました。

私が所属する第三分団の武道班は武道地区の一七世帯から七名体制で形成されています。団員の先輩方は私が子供の頃からの知り合いなので入団してすぐに打ち解ける事が出来

大会当日は家族で応援に来てくれました。父も孫の前で張り切って指揮をとっていました。結果は、上位入賞は逃しましたが、練習、大会と充実した時間を過ごせました。達成感から自然と副分団長に手を差し出し、しっかりと握手をしました。父と握手するのは十数年ぶりのことでした。

反省会での部長の挨拶の中で、『消防団の家から火事を出さない。消防団の隣の家からも火事を出さない。我が三分団から絶対火事を出さない。』という印象的なフレーズがありました。

ました。

消防団員として、活動を開始したのは、春の火災予防週間からでした。火災はあってはならないもの。予防を喚起する側になり、その想いは強くなりました。

初めての訓練大会も貴重な経験でした。練習中何度も間違い、自宅に戻ってから父と二人で動作を確認していました。副分団長でもある父も初めて指揮をとることになり、お互いに必死でした。「正直これが実際のなんの役にたつんだ」とくじけそうになる度に思ったものでした。



た。その言葉を受け、身が引き締まったのを今も覚えています。団員一人一人の意識が地域に浸透した結果、昨年大森町は無火災を達成することができました。

これからも、地域への防災に対する関心、意識付け、声かけなど、火災を未然に防ぐ活動を精力的に行っていきたいと思っています。



森田ポンプ  
桜ホース・ソフト吸管  
各種消火器

ラビットポンプ  
消防被服一式  
消防機器一式

株式会社 協立  
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3  
TEL (0185) (52) 6361  
(52) 6494

地域の防災、災害対策に貢献!

**消 防**  
ポンプ自動車  
小型ポンプ  
ホース

**設 備**  
火災報知器  
スプリンクラー  
消火器

**猿田興業株式会社**

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)  
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

支部情報アラカルト

第一八回

全国女性消防団員  
活性化秋田大会に向けて

|| 秋田市支部 ||

平成二四年一月一六日、第一八回全国女性消防団員活性化秋田大会が秋田市の秋田県民会館、秋田キャッスルホテルで開催されます。

この大会は、全国の女性消防団員が一堂に集い、消防団活動について情報交換と地域を越えた交流を行うことにより、より幅広い知識、視野の修得と一段と高い使命感の醸成を図り、消防団活動の一層の活性化に資することを目的とし開催されるものです。

大会は、約二、五〇〇人が参加し、活動事例発表、火災予防啓発劇、パ



ネルディスプレイスカッションの他に西馬音内盆踊りやなまはげ太鼓等、様々な催しが予定されておりあります。

我が秋田市女性消防団は、地元開催を盛り上げるべく、火災予防啓発劇に応募し見事選考されました。

「止まれ、倒れる、転がれ」と題したこの啓発劇は、可愛い動物の着ぐるみを着て、四人で行います。

子供にわかりやすいよう、ユーモアを交え、また一方では火災の恐ろしさが伝わるようにと、工夫を凝らし、猛暑の中汗だくになり練習に励んでいます。

役者の四人は、子育て中であつたり、仕事を持っていたり多忙ではありますが、今大会が大成功に終わることを目標にがんばっておりますので、皆さん暖かい応援よろしくお願ひします。

(情報提供 || 秋田市支部)



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成 24 年		平成 23 年			同期比較	
	9 月	累計	9 月	累計	年計	9 月	累計
建 物	24	185	17	175	220	7	10
林 野	3	31	1	15	16	2	16
車 輛	3	26	3	31	44	0	- 5
そ の 他	16	72	4	52	56	12	20
合 計	46	314	25	273	336	21	41
死 者 数	1	12	2	27	34	- 1	-15
負 傷 者 数	3	48	2	48	62	1	0



トーハツ消防ポンプ  
モリタ自動車ポンプ 総合防災設備センター  
消防被服全般  
秋 田 県 代 理 店

株式会社 高 義 商 会

(営 業 種 目) { トーハツ小型動力ポンプ  
モリタ自動車ポンプ  
ジェットホース  
消防被服全般  
火災報知器各種  
消 火 器 各 種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32  
TEL(0183)(42)2125  
〒012-0844 湯 沢 市 田 町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号  
TEL (0182)(32)3880

(営 業 種 目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース  
トーハツポンプ | シバウラポンプ  
各種消防機械器具 | 各種消火器  
消防設備保守点検

ホームページ <http://www.17.ocn.ne.jp/~takagi/>  
E-mail [ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp](mailto:ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp)